

三刀屋町地内で古代の鍛冶工房跡発見ー

現地説明会開かれる



ある19箇所の遺跡のうち14箇所は鉄穴流し(砂鉄採取)跡、たたら跡、鍛冶遺跡などの製鉄関連遺跡です。

このうち、六重地内にある鉄穴内遺跡では奈良時代後半から平安時代はじめ頃の鍛冶工房の跡が発見されました。

雲南市三刀屋町六重、中野地内では、中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う発掘調査が島根県により4月から行われています。木次町から吉田町にかけての予定路線内に

注目されたのは出土遺物で県内では木次町について2例目となる鉄鉗や、巡方と呼ばれる役人の位を示すベルトの飾り金具が出土したことです。巡方の出土は中四国・九州地方では初めてでたいへん珍しいものとなります。

また、中野地内にある堂々ノ内遺跡からは鎌倉室町時代に操業されたとみられるたたら跡が見つかりました。9月16日には、これらの遺跡を市民の皆さんに見ていただく現地説明会が開かれました。当日は、あいにくの

雨でしたが地元の方々はじめ多くの皆さんが遺跡を訪れ、島根県埋蔵文化財調査センター職員の説明に熱心に耳を傾けていました。



緑のダムを守り育てる

上久野地区森林整備事業竣工



森林の水源かん養機能を高めるとともに土砂災害を防止するため、大東町久野地区で実施されてきた水源森林総合整備事業がこのほど完了し、10月13日、久野生活改善センターを会場に竣工式が行われました。

平成14年から4年の歳月をかけ竣工した同事業は、整備面積52ha、総事業費3億3,490万円、溪流の土砂流



出を防ぐ谷止工やスギ・ヒノキの植栽・間伐などが実施されたものです。

式に先がけ行われた記念植樹では、島根県や雲南市、大原森林組合、地元の関係者らがソメイヨシノ10本を植えました。

式では、地元促進協議会の景山康治会長が「上久野は森林面積85%の山々に囲まれた地域です。昭和初期には木炭需要もあり、山も手入れされていました。荒廃していた森林が整備されたことは、うれしく思います。今回整備された山々は地元をあげて守っていきたい」とあいさつしました。



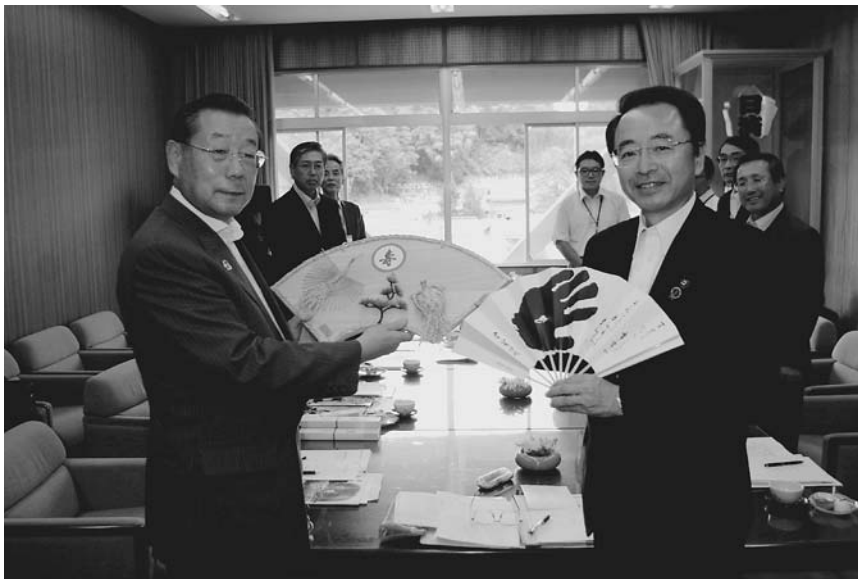
市では、長野県東御市(旧北御牧村)に続く全国2例目の身体教育医学に関する研究機関として、今年4月から「身体教育医学研究所うんなん」を開設しています。

9月25日には、東御市の土屋哲男市長ら関係者が雲南市を訪れ、速水市長らとともに研究成果の相互提供や両市間のネット

ワーク強化、各種交流・共同事業の連携推進など具体的な取り組みについて協議しました。

また、両研究所の運営委員長を務める東京大学大学院身体教育学講座の武藤芳照教授も同席し、「転倒予防などからだを育む実践研究を重ね、両研究所がさらに連携・協力することで、住民が健康やかで実りある日々を過ごすことができる」と話されました。

今後、身体教育医学研究所うんなんでは、子どもから高齢者のみなさんまでの健康づくりに役立つ、地域に密着した活動を展開していきます。



身体教育医学研究所 ささらなる連携・協力を

長野県東御市と交流

介護サービスの充実を 笑寿苑増床開所式



9月22日、加茂町の特別養護老人ホーム「笑寿苑」の増築工事が終了し、その開所式が開催されました。

この工事は、介護サービス需要の増加に伴い、約2億5千万円(用地取得・造成費を除く)をかけて、ユニット型個室20床を増床したものです。

式で影山喜文助役は「家庭での暮らしに近い雰囲気づくりをめざして整備しました。入所者の方にも満足していただけたらと思います」とあいさつしました。

同施設を運営する社会福祉法人かも福祉会では「地域に根ざした施設づくり」と、明るく、温もりのある生活環境の提供」をめざし、介護サービスの提供をしていきます。

収穫の秋

古代米の稲刈り体験

秋晴れの中、市内各地の小・中学校で稲刈りや八デ掛け体験が行われました。

このうち三刀屋小学校では、10月11日、子どもの居場所づくり事業の一環として、5年生の児童らが、地域のまちづくり団体「松本古墳を考える会(片寄一郎会長)」の会員らとともに稲刈りに挑戦しました。

この日収穫されたのは、「神丹穂」という種類の古代米で、天日干しされた後、収穫祭で味わうことになっています。

